

佐久島Oyaoya cafeもんぺまるけ

調査団体名 : 佐久島Oyaoya cafeもんぺまるけ
 設立年 : 2009(平成21)年
 団体URL : <http://sakushiba.blog102.fc2.com/>
 活動拠点 : 愛知県西尾市一色町佐久島立岩47
 取材日 : 2014年12月21日

団体代表者名 : 神谷芝保
 対応してくれた人の名前 : 神谷芝保
 調査員 : 近藤朗、浜口美穂、洲崎燈子
 レポート作成者 : 洲崎燈子

活動内容

畑で育ったお野菜や島の素材を使ったおやつ＝Oyaoyaを提供するカフェを営業している。ハンドメイドの雑貨類も販売している。金～月曜の営業で、冬季休業あり。店主の神谷さんが仲間たちに協力してもらいながら、床が抜けてつる植物と竹藪に覆われていた廃屋を古民家カフェに再生させた。ライブや流しそうめん、餅つき大会などのイベントや「まるけマルシェ」と名付けたマルシェも開催している。「まるけ」は「～まみれ、～でいっぱい」の意味で、畑をやっているから店名を「もんぺまるけ」にした。来店するお客さんの多くは東海3県の若者で、島の人を訪れる。

キャッチフレーズ

種まきからキッチンまで

会のモットー(何を大切にしているか)

畑で育ったお野菜や島の素材など、誰が育てているかたどれるものを食材にしている。

設立から現在に至るまで変化したこと

(店主の神谷さんが)いろいろなことができるようになった。例えばチェーンソーを使った薪づくり。炊飯やストーブ、お風呂を沸かすのに薪を使っている。薪材は森林組合が切捨間伐する広葉樹でまかなえる。佐久島に移り住む前、通いで来ていた頃は島の人に怪しまれたりもしたが、住み着くようになってからは助けてもらえるようになった。野菜や魚を頂いたり、家具職人さんが家具づくりを手伝ってくれたり、お世話になっている方の家にあがりこんで食事をしたりテレビを見させてもらったりしている。今年は観光協会の委員や「島を美しくつくる会」のいにしえ分科会のリーダーをしている。佐久島太鼓の練習に毎週参加するようになり、篠笛も吹くようになった。

連携している団体・専門家・自治体など

島を美しくつくる会、名城大学谷田研究室、イニユニックビレッジ

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

お店の運営を手伝ってくれるバイトを雇っている。佐久島ブランドとしてハブ茶の生産を始めた。佐久島ブランド品を増やしたい。ちなみにハブ茶の原材料はエビスグサの実だが、枝は焚きつけになって助かる。

現在直面している課題

相方がいない。1人でやれることは大体できるようになったので、次のステージに進みたい。

今後やってみたいこと

今は店舗に寝泊まりしているので、自分の住居になる小屋をつくりたい(現在製作中)。畑や、海水からの塩づくりも、もっとちゃんとやりたい。また、島でウェディングをやれるようにしたい。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

やはり相方です。

チームオリジナルの質問

<質問内容>なぜこのお店を始めようと思ったのですか。

<答え>以前は名古屋のカフェで働きながら好きなことをしていたが(半カフェ半X)、周囲の皆が畑をやっている自分もやりたくなり、場所を探していたら最初にここを見つけた。最初は週の半分を名古屋、半分をここで過ごしていた。廃屋を建て直し、周囲の竹を伐採するために、以前弟が在籍していた名城大学理工学部建築学科の谷田研究室に企画を持っていったら話に乗ってくれ、4~5回作業に協力しに来てくれた。竹の伐採・抜根は友達や、以前働いていたカフェのお客さんにも手伝ってもらった。家の建て直しで難しいところは大工をしている友人に頼んだ。また、島でたまたま出会った、ここに別荘があるおじさんが何でもできる方で、建て直しの指導をしてくれた。設計図なしで壁や床をはがしつつ考えながら作業をしたが、設計図の必要性を認識した。こうした作業を、島に通いながら半年かけて行った。

チームオリジナルの質問

<質問内容>一年間の過ごし方を教えてください。

<答え>春から秋はカフェで働き、冬は店を閉めて東別院や甚目寺の手づくり朝市にお菓子を出品したり、家直しや小屋建てをしたり、長期の旅行をしたりする。

しばちゃん(店主の神谷さん)語録

- ・以前マイ箸を普及させるために自転車で日本一周旅行をしていたが、その時泊めてもらった石川の方が偶然来店してくれて驚いた。
- ・2006年にアースデイの実行委員会で出会った大人たちを見て、定職に就かなくても生きていけるんだと思った。
- ・今も島内外に泊めてもらえる家がたくさんある。どこでもストレスなく泊まれる。
- ・みんなに助けられているので、ずっと独身だが1人で生きている感じがしない。

取材者のひとこと

取材をさせてもらったカフェは心癒やされるとも素敵な空間でした。取材の日は餅つき大会とマルシェがあり、その後にお話を聞いたのですが、取材中もお店のスタッフや仲間たちができてきぱきと後片付けをしてくれていて、みんなに支えられているお店なんだと実感しました。しばちゃんの人柄のなせる技だと感じました。取材者の浜口さんの、「しばちゃんのやりたいことが、みんなのやりたいことなんですよね」という言葉が印象的でした。また、半農半Xと放浪癖を両立するライフスタイルを実現していることに感銘を受けました。

写真



カフェの前庭。餅つき大会&マルシェ開催中



左が神谷さん。取材者も餅つきに参加

写真



おしゃれなカフェの玄関



お友達が描いた店内の絵



雑貨の販売コーナー



取材風景。中央が神谷さん